

舞台化実現!! 南京大虐殺(1937年)70周年記念追悼公演 2006年、12月 [中国・上海市、南京市] [アメリカ・ニューヨーク市] [国内30カ所]  
~07、12月

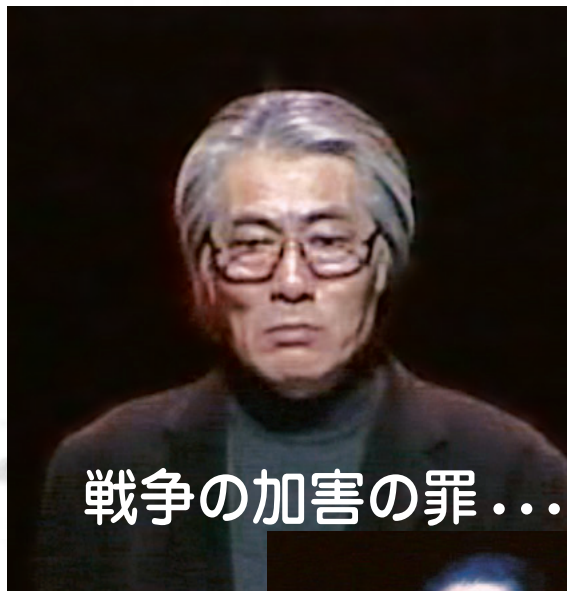
ノンフィクション・ステージ

ディクセンバー  
地獄の *DECEMBER* (12月)

# - 哀しみの南京 -

プロローグ・2幕11章・エピローグ

この舞台は、  
実話です



戦争の加害の罪...



本多勝一 (ジャーナリスト)

舞台化するのに最も難しい題材「南京大虐殺」を、かくの如き、みごとに創りあげたことに驚いた。全国、海外での公演成功を心より祈ります。



「戦後、私の家族の中にあつた闇—戦争の加害の罪—への

私達自身の告白であり懺悔なのです」

IMAGINE21

渡辺義治

横井量子

作・構成・演出・美術・出演

協力・推薦

吉田 裕

(一橋大学教授)

笠原十九司

(都留文科大学教授)



## ◆ 告白 渡辺義治(よしじ)

私は1947年に生まれました。父は、職業軍人として中国人を殺し、そして父達、関東軍将校と家族達は同胞の日本人を中国に置きざりにして帰国した。この事実を兄から聞いたのが1991年…すぐに、嫌がる妻を連れて中国東北部「旧満州」へ飛んで行った。中国人の「生首」を持って笑っている…軍人の写真を見た。『あんた達は日本人だろ。ここから大勢の中国人が「731部隊」や「日本」に連れて行かれ、今だに帰ってこない。日本人としてどう思う?』と、夜行列車のコックさんに問われた。

「C級戦犯」だったと聞かされていた父のその罪の中に、まさに私は、今も父の罪と共に生きている…いや、生かされているのだと思った。

そして、10年後の2001年「南京」へ行った。長江の虐殺現場で手を合わせた時、突然、目の中が真っ赤になり、ハチ割れる様な頭痛に襲われた。そして、「ウーウー」と唸る様な声に支配された。あまりの痛さにその場を離れた。すると、ウソの様に痛みが失くなったのだ。他の現場でも同じ事がおこった。

この時、私は「南京大虐殺」と向き合わねば…と、思った。いや、向き合わされたのだと思う。

## ◆ 告白 横井量子(かずこ) [本名 渡辺量子]

私は1946年に生まれました。父は1937年、近所の目黒の大橋の「連隊」に兵士の日用雑貨を納める商いを本格的に始めた。大好きだった父の写真の中で一枚だけ嫌いな写真があった。戦争中に儲けていた頃の写真…父は大口開けて笑っている!!「アッ!」と思った。父が売った品物を身につけて兵士達はどこへ行ったのだろう…?。中国、アジア、沖縄、他には考えられない!!。

「今頃、戦争に負けなんだから…楽しんで、儲けて…」、子供の頃に聞いた父の言葉を何回も言ってみた…思いもなかった事が頭に浮かぶ…父にとって、あの戦争は「いい思い」をさせてくれた…ものだったのでは…?…思ってもいなかった戦争中の父の姿…と、写真が一致した。

兄嫁さん達は口をそろえて言う「おとうさんは仏様の様な人だった…」…と…。

けれど、私の愛する父は、軍人より重い罪を犯していたと思う。

何故なら、父達「御用商人」は人にやらせて「お金」だけ取る…のだから。

そして、私はどうとう、作品づくりの為に読んでいた本の中で知った…!!。

父の商い先の「目黒輜重(しちょう)連隊」が南京へ出兵していたのだ…!!。



## ニューヨーク便り

南京大虐殺受難記念同胞連合会 ケビン チャン

ニューヨークでの公演(2007年12月8日)が成功に終わった。

観衆の中には、“南京大虐殺”の歴史を背負いながら生きてきた年配の中国人もいれば、知識としてしか知らない若い人達も、その歴史について全く知らないアメリカ生まれの世代も、そして関心をもって見に来てくれたアメリカ人も、日系のアメリカ人もいました。終わった後、横井・渡辺両氏と抱擁し、熱い涙を流した人たちもいました。

その晩、感動のあまり一晩泣いたと翌日話してくれた若い中国人留学生もいました。実は人間同士の心の交流と感動を伝える素朴な感情やいたわりがこうも簡単にできるのだと感じられたのは初めてでした。

中国文化に少しでも染められた人ならわかると思いますが、中国文化を背景に持っている人たちは、アメリカ人であろうと、華僑であろうと、はたまた中国本土の人たちも又しかり、歴史に関しては、広い心を持ち、“忘れないが、許す心の準備”はいつもできていると思っている人たちが多いはずなのです。しかし、そうならずいつも彼らを苛立たせ、“怒り胸中に満ちる”心境にならざるを得なくさせてきたのはほかならぬ日本政府や保守派の多くの人たちでした。渡辺・横井両氏のしているのはまさにその一部の日本人にできなかったこと、そして多くの日本人が本当はしたかったこと。それをお二人は正直に、素朴に、感動的に、そして単純にしてくれたのでした。ありがとうございます。



◆ 同じく戦争の苦難を被った日本人の計り知れないほどの哀しみ、苦しみをこれほどはっきりと感じたことは今日ではじめてです。逝くなった人々の魂がきっと癒され、きっと暖かい眼差しで見つめていることでしょう。わたしは生涯、今日の情景を忘れることはないでしょう。そして中国の人々に必ず伝えます。本当にありがとうございます。(日本在住20年の中国人、大学教授、40歳代婦人)

◆ 心の深い、深いところに響く作品。こころより御礼申し上げます。日本人のすべてが、そして世界の人たちに見てもらいたいと願っています。絶望的と思える日本の現状の中で、深く強く希望を持ちます。それは力だと思えます。ありがとうございます。(70歳男性)